

秋田県南若者サポートステーションよこて 利用の傾向と分析・評価（2014/4～2023/3）

2023/7/1

— 評価と分析 —

【はじめに】

秋田県南サポートステーションよこて（以下、サポステよこて）は、2014(平成26)年の開所以来、今年で10年目を迎えています。その間、就労や自立を目標とする様々な事情を抱えた若者の支援をしてきました。

これまでに得られたデータの集計・分析に加え、関連する評価についても様々な角度からの考察を試みました。その結果、利用者個々の希望に応じた支援をいっそう強化していかなければならないことや、横手市以外においてもサポステよこての知名度を上げていくための工夫がさらに求められていることなどが明らかになりました。

【分析】

1. 新規来所者数(総数494)と新規登録者数(総数398)には100名弱の差がありますが、これは来所された方々の最初の面談(インテーク面談)でお話を伺った結果、サポステによる支援の条件には合致せずに残念ながら登録できなかったケースや、面談の結果、来所者自身の判断によって登録には至らなかったケース等によるものです。
例えば、①会社に籍はあるものの現在は休職中の方、②学校を休学中、あるいは不登校の状態にある方、③自宅に長く引きこもっていた方が周りに勧められ、同伴されてサポステに来所されたのですが、その後の来所には至らなかった、などのケースがありました。(図1,図2)
2. 就職者のうちで、雇用保険該当者(週20時間以上で31日以上継続雇用)は全体の55%ですが、これに該当しないアルバイト等も含めると6割程になります。厚生労働省では、「雇用保険被保険者」であることを「就職」としていましたが、2018(平成30)年度から、週20時間未満の就労者についても、将来的に被保険者となることが見込まれる方や公的職業訓練受講の方も「就労等」として実績に含めることとしました。(図3,図4)
3. 市町村別来所者数では、支援センターのある横手市が5割を占めていますが、東成瀬村・仙北市などは極端に少なく、自治体ごとに若者を取り巻く環境—主要産業・産業集積度・観光資源など—に違いはあるものの、公共交通機関の利便性や本人の移動手段等の格差による不利益を克服していくための支援はどうあればよいのか、リモートをさらに活用した相談体制の充実なども含めて今後の課題となっています。(図5)
4. 利用者を年代別に見ると直近の3年間では、20歳代が47%で最も高く、次いで30歳代が26%、40歳代が24%となっています。これまで20歳代が7割を超えていましたが、就職氷河期世代が支援対象となってからは、20歳代が5割弱に減少し40歳代が2割強を占めるようになりました。潜在的に40歳代さらには50歳代にも支援の必要な方々のいることが想像できます。(図6)
5. 人手が足りないとされている介護・福祉や建設・土木を希望する方は非常に少ない。コミュニケーション力や忍耐力・身体力などが総花的に求められる業種で

あり、サポステの利用者がもっとも苦手としている分野でもあります。ものづくりに携わる生産工程従事者が割合としてはもっとも多くなっています。(図7,図8)

6. 就職者の内、6ヶ月未満で就職が決まっている方が67%です。一方で、6ヶ月以上2年未満の方が3割となっており、一人一人のペースに応じた支援が必要とされています。定期的に月2~4回のペースで面談やセミナーに参加する方々は、比較的早期に就職が決定する傾向にあります。(図9)
7. サポステに来所した時点で、職歴のない方が2割を超えています。学校を卒業してから求職活動はしたが職に就かなかつた方や、まったく求職活動をしてこなかった方も15%います。この中には、様々な理由により求職活動を諦めざるを得なかった方もおられます。
 学校在学中から、不登校、引きこもりの傾向にあった方、あるいは家族の面倒や世話をしなければならない立場になった方など、複数の要因が重なったことで本来であれば優先的にしなければならない就職活動に身を入れて取り組むことができなかつたと思われまふ。
 引きこもりでサポステでの支援の結果、就職を果たした複数の方々の事例によれば、サポステへの来所に至る前に家族などからの行動を促す強い助言と刺激のあったことが共通点として上げられます。(図10・図11)
8. 登録者の中でもっとも多いのは高卒者であるが、大学卒業あるいは中途退学者で、合わせて31%となっています。最近、比較的高学歴の方々の来所者が増加傾向にあると思われまふ。(図12)
9. 就職決定者の出身地別割合は、横手市出身者が全体の6割を占めています。それに次ぐ大仙市は15%となっており、大きな格差があることも課題となっています。(図13)
10. 就職者の内、横手市在住者の8割以上が横手市内に就職していますが、他市町村在住者で地元就職しているのは6割以下となっており、いかに地元への就職者を増やしていくのかも課題の一つです。(図14~図18)
11. どの地区においても横手市への就職者数が一定数を占めており、このことは横手市における様々な就労に関する情報の入手や就業先確保などのし易さ、さらには産業集積度が比較的高いことなど、他の地区にはあまり見られない特徴的な面を有していることも利用者にとって良い影響を及ぼしていると考えられます。(図19~図23)

【今後の課題と展望】

データの分析・評価としては、サポートステーションよこての地の利がある程度活かされた結果になっていると考えられます。しかし、県南の市町村全体を支援対象としてカバーしなければならないサポステとしては、やはり利用者の希望に寄り添いながら、出身の市町村への就労機会を増やしていくことが必要となっています。

そのため、サポステよこての周知理解をいっそう進めていくための企業開拓をはじめ、職場体験から採用につながる流れの中に位置づけられる企業を増やしていくことが重要と考えられます。

サポステよこての立ち位置として、県南における若者の自立と就労に関して企業をはじめ、行政・福祉、保健・医療、学校・教育機関、家庭等と連携をより深めながら、それらの中核を担うハブとしての機能を果たしていきたいと考えまふ。

— 分析データ —

図1

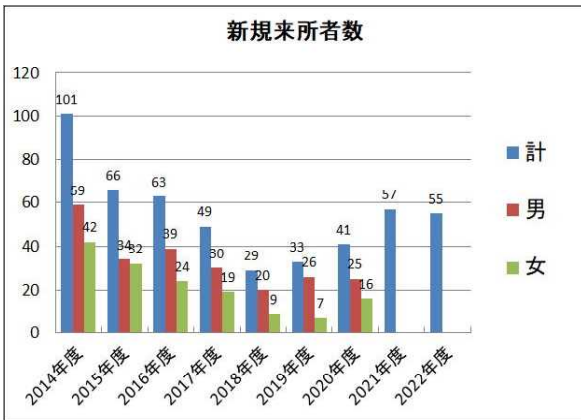
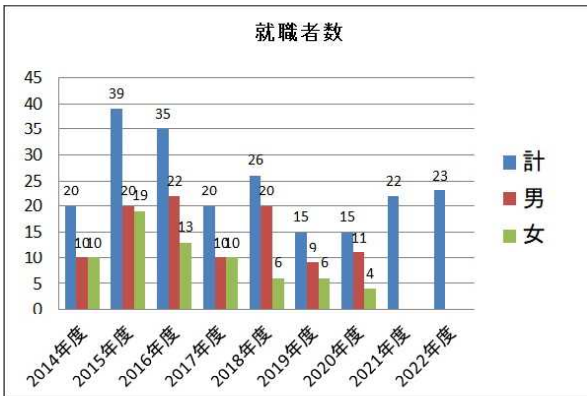


図2

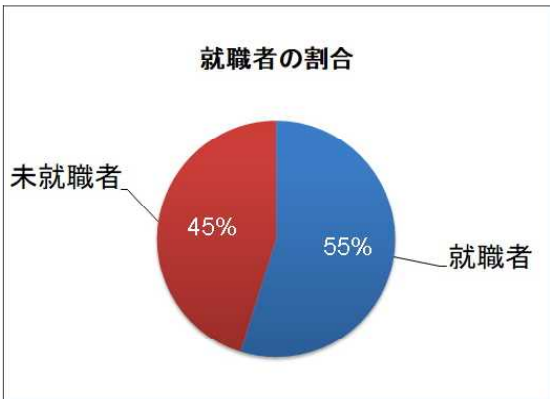


図3



※ 21年以降の男女別集計は行っていません

図4



※ 開所時(平成26年4月)から令和5年3月までの登録者全体を100%とした就職者(雇用保険該当者のみ)の割合

図5

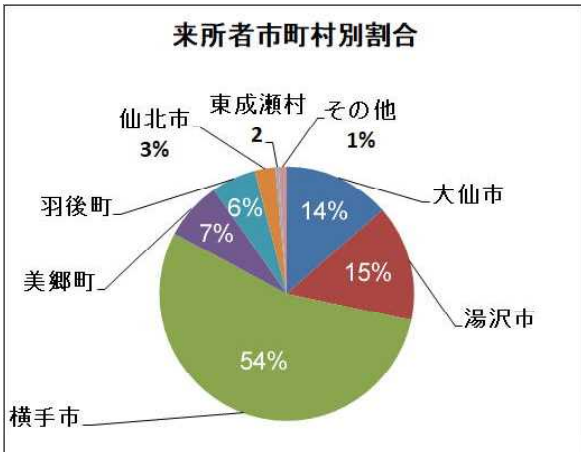


図6

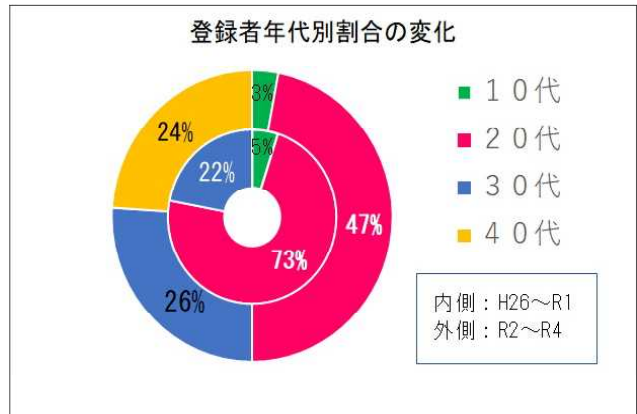
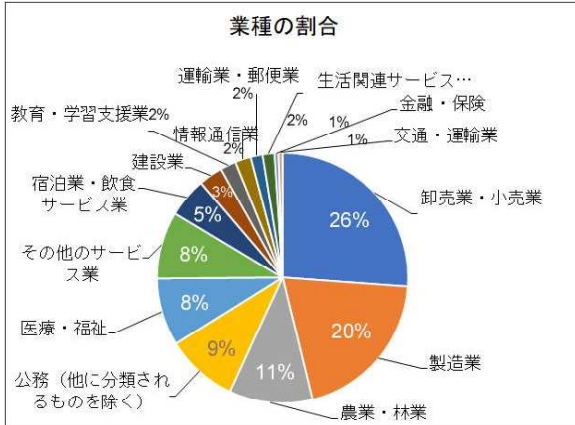


図7



※卸売業・小売業・・・スーパー、コンビニ、ショッピングセンター、書店など

※公務・・・県施設、横手市役所・教育委員会など

図8

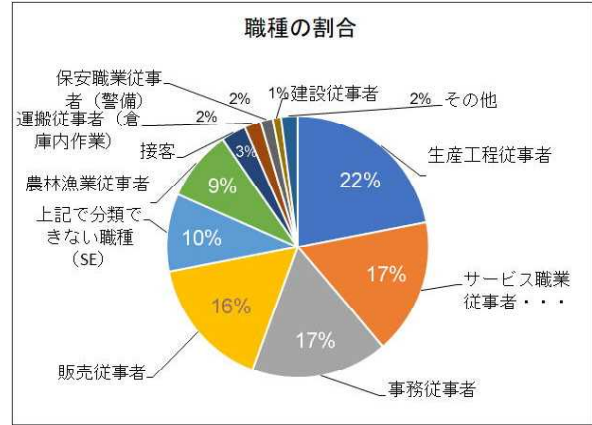


図9

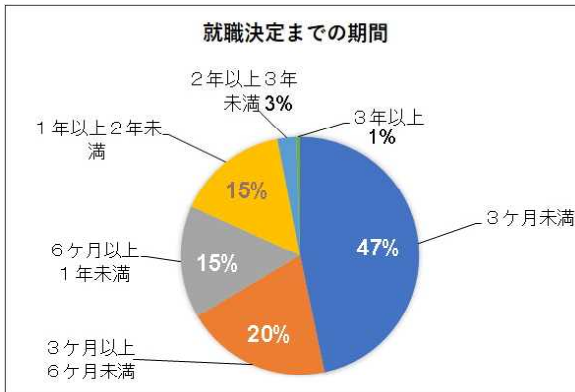


図10

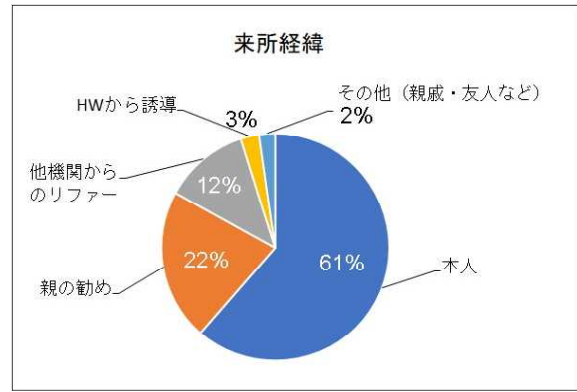


図11

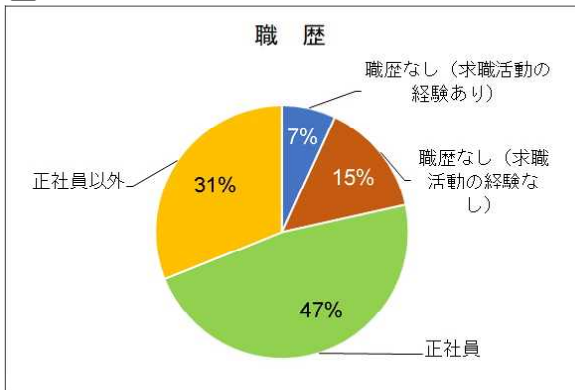


図12

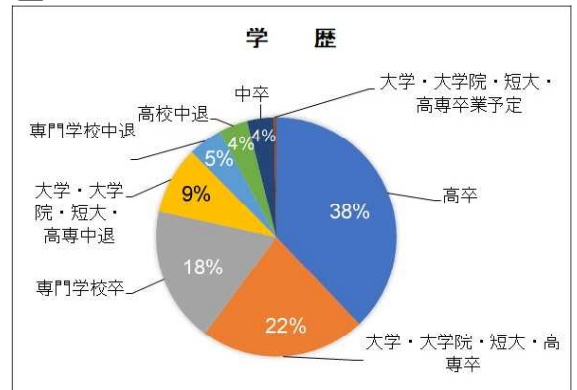


図13

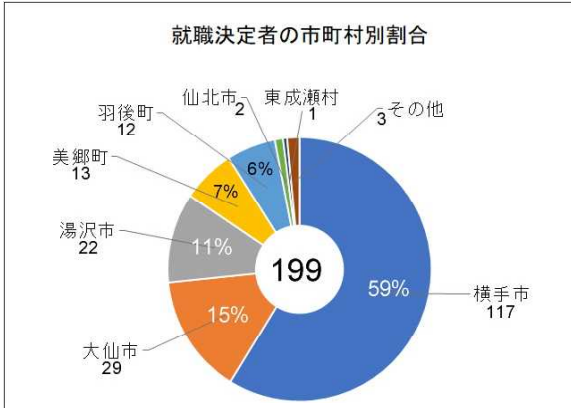


図14

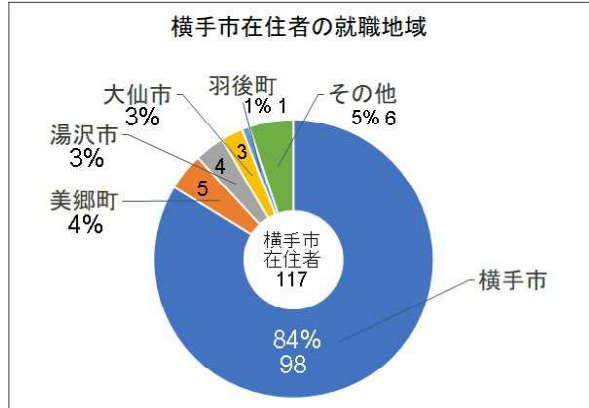


図15

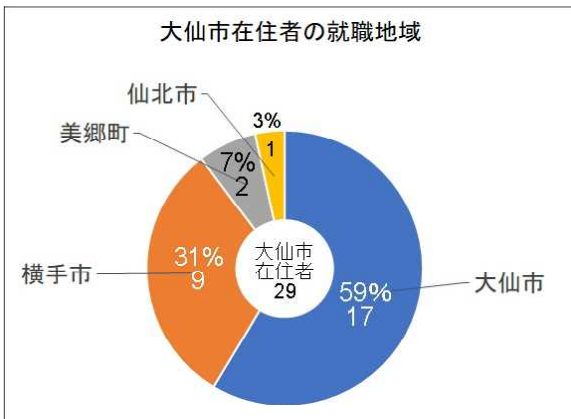


図16

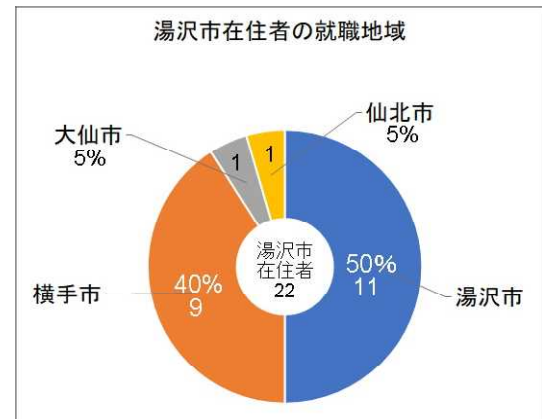


図17

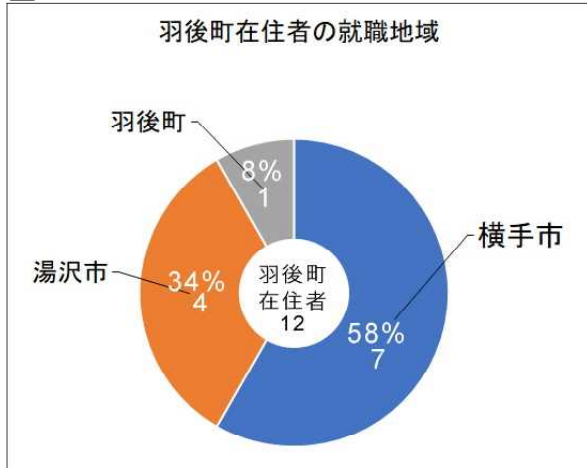


図18

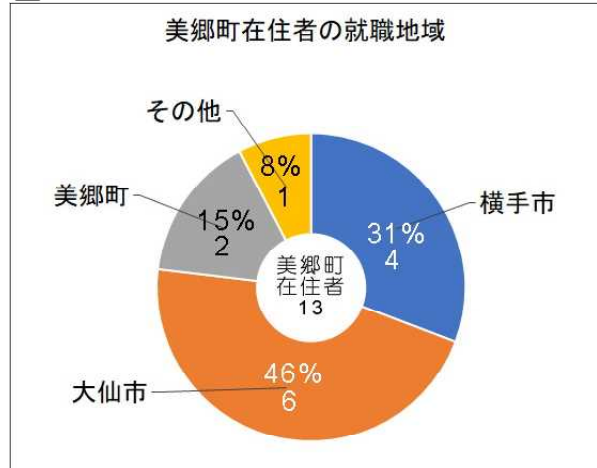


図19

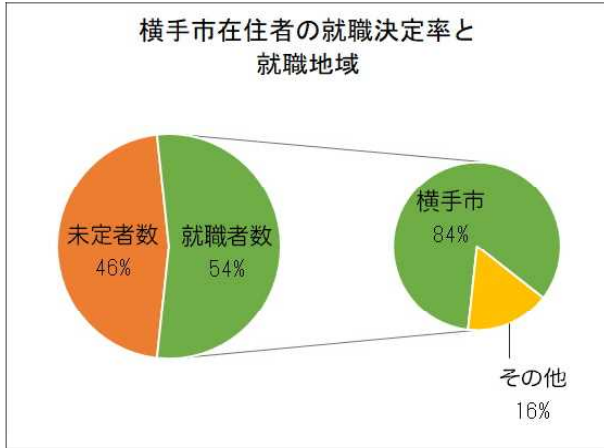


図20

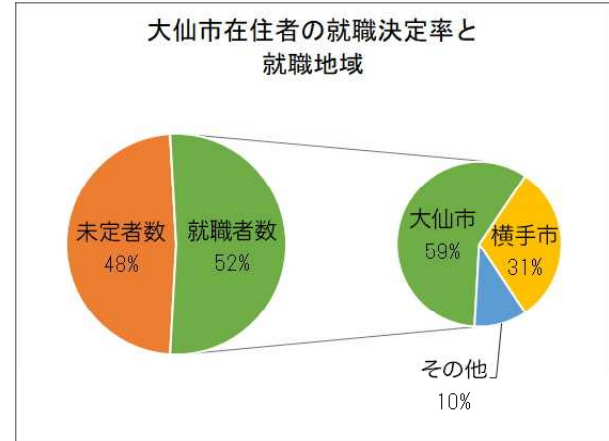


図21

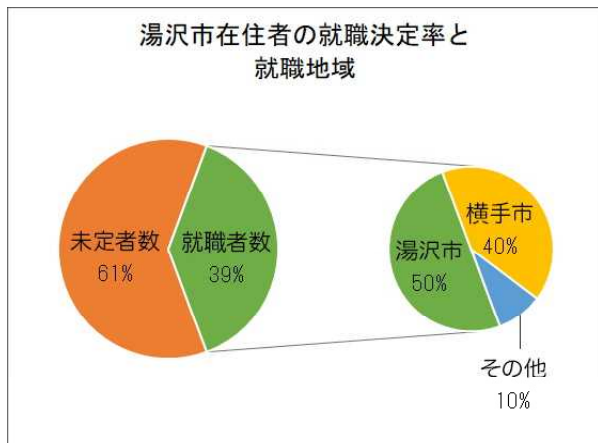


図22

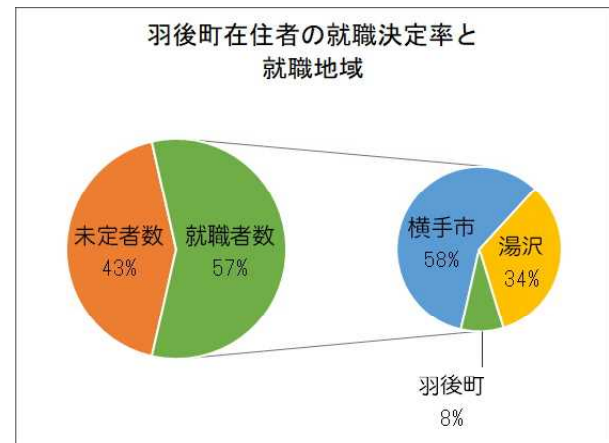


図23

